

2021 全日少サッカー全道 U-12 大会

<準決勝①> DOHTO Jr U12A vs HKD FOOTBALL CLUB U12A 2-1 (0-1、2-0)

前日とはうって変わって気温が低く、風も強く吹く準決勝。高い個々の技術と徹底されたチーム戦術が武器の札幌地区代表「HKD」と、今大会一激しい守備と前を目指すスタイルで勝ち進んできた千歳地区代表「DOHTO Jr」の一戦。

前半から両チーム声を掛け合いながら、球際の激しい攻防が続く。流れの中で DOHTO 18 番がルーズボールを拾ってワンタッチで 42 番へ。シュートを打つがキーパーの正面。このゲームのファーストシュートは DOHTO Jr だった。直後 3 分には HKD がチャンスをもくめる。ボランチ 30 番のサイドチェンジをキープした右サイドの 29 番がワントップの 35 番の足元に正確なパスを送る。そのままターンしてシュートを打つが、DOHTO 19 番が体を張ってブロックし、コーナーキックを得る。4 分そのコ



ーナーキックを DF ラインの隙間に入り込んだ 36 番がヘディングで合わせて HKD が先制する。続く 6 分にも HKD 左サイドの 59 番がスピードに乗ってサイドを駆け上がるが、DOHTO 24 番がしっかりと対応する。勢いに乗ったと思われた HKD だったが、ここから DOHTO が立て続けにゴールを脅かす。10 分。前を向いたボランチ 18 番のミドルシュートは枠のわずかに上を越える。13 分には、42 番のサイドチェンジを受けた 43 番がシュートし、コーナーキックを得た。14 分には右サイドのスピードが武器の 24 番がペナルティエリア内にドリブルで仕掛け、再びコーナーキックを得る。16 分。DOHTO は 43 番に替わって、2 番をワントップの位置に投入。再三チャンスを作ってきた 42 番を左サイドにポジションを変え、より前向きでボールが持てるようになった。18 分には 42 番が左サイドから相手 DF 2 枚をかわしてシュート。惜しくもキーパーの正面でキャッチされ前半終了。

後半開始から DOHTO は 42 番と 15 番を交代。フレッシュな 2 番をワントップにし、前線からのプレスの強度を高める。2 分、HKD のポゼッションのミスをついた 2 番がゴール前でボールを奪取し、そのまま同点弾を決めた。同点に迫につき、より勢いを増した DOHTO はすぐにボールを奪取し、24 番が左サイドからカットインして右足を振り抜く。ゴール左隅に突き刺さり、逆転ゴール。HKD も再び追いつくため、30 番を中心に、ワントップの 35 番をターゲットに攻撃を続けるが、DOHTO の激しいプレスを最後まで抜け出すことはできずに試合終了。決勝にコマを進めたのは DOHTO Jr だった。惜しくも敗れた HKD だったが、最後まで諦めず、チームの決まりごとをやり続ける徹底されたチームとしてまとまった選手たちが印象に残った。

〈準決勝②〉 DENOVA 札幌 – 北海道コンサドーレ札幌 U-12 1-0 (1-0、0-0)

準決勝 B コートの試合は、DENOVA 札幌と北海道コンサドーレ札幌 U-12 の「札幌地区対決」となった。DENOVA 札幌は、北湘南サッカースクール U-12(室蘭地区)、Faminas(旭川地区)を破っての準決勝進出、北海道コンサドーレ札幌 U-12 は、リトルウイングス SFT サッカー少年団(オホーツク地区)、そして「コンサドーレ対決」となった北海道コンサドーレ室蘭 U-12 との一戦を制しての準決勝進出であった。

DENOVA のスターティングメンバーは 1、2、3、4、5、8、9、11。コンサドーレは 3、4、5、6、9、10、12、18 というスターティングメンバー。やや強い風が吹く中、DENOVA のキックオフで試合開始。

前半風上に立ったコンサドーレ。立ち上がりコンサドーレ左サイド 6 番のドリブル突破からチャンスを作る。続いて 9 番がシュート、コンサドーレのチャンスが続

く。コンサドーレの村井監督からは「シュートで終われ！」の指示が飛ぶ。直後、コンサドーレ 5 のシュートがポスト直撃。DENOVA 佐藤監督もチャンスを作ったと見るや、「シュートで終わろう！」の指示。コンサドーレがボールをよく動かしながら、ゴール前に迫るものの、DENOVA も体を張った守備で粘り強く対応する。すると 15 分、高い位置でのインターセプトから 11 が GK と 1 対 1 になり、シュートを決めて DENOVA が先制する。続いて DENOVA 3 番が意表を突くロングシュートを打つなど、DENOVA の攻撃の時間が長くなってきたところで前半終了となった。

後半の立ち上がり、DENOVA の連続攻撃が続く。11 番のドリブル突破からチャンスを作る。その後もシュートで終わる展開が続く。コンサドーレも果敢に攻め込むものの、DENOVA のハードな守備に中々ゴール前まで進むことができない。その後もコンサドーレは怒濤の攻撃を続けるが、DENOVA の集中した素晴らしいディフェンスがゴールを割らせず、そのまま 1-0 で試合終了。大会を通じ、高いテクニックを活かした多彩な攻撃を展開したコンサドーレだったが、ハードワークを徹底し、攻守共に集中した戦いぶりを見せた DENOVA が決勝進出を果たした。



決勝 DENOVA 札幌 - DOHTO,jrU-12A

決勝は、準決勝で共に僅差ながら、ハードワークで勝ち抜いた DENOVA 札幌と DOHTO,jrU-12A との対戦となった。

強い風が吹く中、風下の DOHTO のキックオフで試合開始。序盤はお互いチャンスらしいチャンスが無いまま試合が進むが、DOHTO は 4 分、24 番が良いコントロールからシュート。DOHTO が先制する。5 分、42 番がサイドから積極的に仕掛け、コーナーキックを獲得する。

7 分、こぼれ球を拾った 24 番のシュートを DENOVA の 4 番がシュートブロック。準決勝に引き続きハードワークな守備で流れを引き寄せようとする。DENOVA は 10 分、コーナーキックのこぼれ球を 5 番が押し込んで同点とする。DOHTO は 12 分、18 番のパスから 42 番がシュートをして、コーナーキックを獲得。13 分、そのコーナーキックのこぼれ球を 18 番がシュート、バーを叩く。16 分、ゴール前で受けた 42 番が狭い隙間を抜け出して冷静にシュートを決め DOHTO が勝ち越す。DENOVA は 20 分、5 番がミドルシュートを打つが枠の上に外れる。DOHTO が前線からのハイプレッシャーをかけ続け、DENOVA は DOHTO が前がかりになったところをカウンターで返すという展開で前半が終了する。

後半開始の立ち上がり 21 分、DOHTO、18 番からのスルーパスを 42 番がシュートするが惜しくも外れる。

23 分、DENOVA は 9 番のスルーパスから 11 番がシュートするも外れてしまう。その後は両者膠着状態が続くが、徐々に DENOVA ペースとなり始め、31 分、6 番がシュート。惜しくも枠は捉えられず。その後も攻撃を繰り返す。DOHTO も 35 分、GK からの一本でゴール前まで迫るも決められなかった。36 分、15 番のクロスから 42 番がシュートをするが枠を外れる。DENOVA も 38 分、コーナーキックのこぼれ球を 3 番がシュートするが外れる。残り 2 分となり、DENOVA の怒濤の攻撃を最後まで体を張ってゴールを守り抜いた DOHTO が 2-1 で全道大会初優勝を決め、見事に鹿児島への切符を手に入れた。

決勝はハードワークして勝ち抜いたチーム同士の対戦であり、選手や指導者の情熱が伝わってくる熱い試合であった。優勝した DOHTO には北海道の代表として、全国大会での更なる活躍を祈念する。

